

# 2008年度 早稲田大学 文学部

## 日本史 解答例

### I 縄文時代と弥生時代 <やや易>

問1ア 問2ア 問3イ・オ 問4ウ 問5環濠 問6イ・エ

問1はアの「長期間」とイの「本格的」をそれぞれどう解釈するかで正解が分かれる。非常に判断に苦しむ問題となっている。

### II 古代の地方行政 <やや易>

問150 問2エ 問3オ 問4エ 問5雑徭 問6ア 問7受領 問8田堵

早大入試定番テーマからの出題。一見難問と思われる問題も、過去には何度も出題されている。対策を十分にとっておいて、受験会場で笑いたいものである。

### III 中世の政治 <標準>

問1エ 問2西面の武士 問3イ・ウ 問4オ

問5両統迭立 問6ア・オ 問7エ

問7はリード文にある「同時に」が、どの時期を指しているかがはっきりしないために悩まされた。足利義満が太政大臣になったのは、南北朝合体の1392年ではなく1394年であった。

### IV 江戸時代の史書 <やや易>

問1イ・オ 問2本朝通鑑 問3ウ・オ 問4ウ

問5頼山陽 問6首里 問7オ

正誤問題の選択肢はどこまでツッコミを入れるかで悩む場合がある。問1のエなどもその類であった。「弘文館→聖堂学問所→昌平坂学問所」と発展したため、エを誤文と判断した受験生もいるだろう。しかし、オの方が明らかに誤文である。正誤問題というのは、あくまでも選択肢を見比べて解答を出すものである。

### V 近現代の戦争 <やや易>

問1帷幄上奏 問2オ 問3日比谷 問4ウ 問5イ

問6 柳条湖 問7 エ 問8 ウ 問9 鈴木安蔵 問10 ア

問4のみ難問。問9は山川出版の教科書に「高野岩三郎らによる民間の憲法研究会」とあるが、一方で三省堂の教科書には「政治学者の鈴木安蔵ら憲法研究会」とある。一種類の教科書をみっちりやっただとしても高得点にはならないことがよくわかるだろう。

## VI 古代～近世の美術 <易>

問1 (1) エ (2) イ (3) ウ

問2 (1) 伴大納言絵巻 (2) 平治物語絵巻 (3) 雪舟 (4) 尾形光琳

昨年まで出題されていた図版問題が消えたが、やはり美術史から大問1つ出題された。当然備えておくべきテーマだとわかるだろう。

## 講評

文学部を第一志望とする受験生には、気のせいかわか受験日本史に対して甘い考えを持っている人が多いように思える。「一問一答集をやればいい」とか「戦後史はやる必要がない」とか……。しかし、上記のとおり教科書を1冊仕上げたとしてもハイレベルな問題は解けないし、時代範囲も縄文時代から1955年まで広く出題されている。また、ここで詳細に説明するのは困難だが、受験日本史はけっして‘歴史バナシ’が理解できていればいいというわけでもない。入試で出されるいくつかの用語を、まるごと‘わしづかむ’ことが大切なのである。うまい形でまとめたノートを用いて覚えることをオススメする。そのまとめを瞬時に思い出せるようになったうえで早大の問題を見れば、時期の違いで消去できるダミー選択肢の多さに驚くはずだ。一問一答集による学習とはまったく違うステージの学習法があることを知ってほしい。